

『高校生企画実現！ 企業連携プログラム』 ～六本木ヒルズでクリスマスツリーをバックに「自撮り」しました～ 支援団体：株式会社 RABBITSCOMPANY

地域教育推進ネットワーク東京都協議会の会員団体のプログラムを、都立高校のキャリア教育等の授業に導入しています。これは、都立高校生が社会や職業について実感をもって理解しながら、将来社会人・職業人として生活していくために必要な能力等を身につけることを目的とした事業である「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」として実施しているものです。

今回は、株式会社 RABBITSCOMPANY のコーディネートで高校生企画が実現した授業をご紹介します。

「地域研究」の授業で森ビル株式会社と連携

都立六本木高校では、2年次の必修科目として「地域研究」という地域の商店街や企業について調べる授業を行ってきました。平成25年度は、女性起業家のサポートやキャリア教育コーディネートを行っている株式会社 RABBITSCOMPANY (代表取締役 実川香名美さん) に相談し、六本木ヒルズを管理運営する森ビル株式会社に協力を依頼しました。そして、高校に隣接する六本木ヒルズに高校生が集まる企画を森ビルに提案する授業を実施できることとなりました。

授業は、最初に六本木や麻布地域の歴史について学ぶことから始まります。そして、六本木ヒルズに対して自分たちが持つイメージをまとめ、ホームページ等で調べておきます。近いのに行かないのはなぜか、どのような企画があれば行くのかも書き出しておきます。次の授業では、実際に六本木ヒルズを訪問します。学校から近いけれども、この時に初めて六本木ヒルズに行ったという生徒も多く、社員の方の説明を聞きながら、施設内や展望台をじっくり見学しました。



そして、実際に「六本木ヒルズを活用した高校生から大人までが楽しめるイベント企画」を考えます。見学に行った中で、このような企画があれば、このような場所があれば、と気づいた点を、企画へと広げていきます。企画提案をプレゼンテーションとしてまとめ、校内で学習成果発表会で発表しました。



この発表会に来ていただいた社員の方の協力で、六本木ヒルズの企画運営に関わる社員への企画提案の場が実現します。7月には、約30名の社員の方に対して、森ビル会議室でプレゼンテーションを行いました。「高校生による高校生のためのアートフェスティバル」、「高校生のためのキャラクター展」など、代表となった4名の高校生が発表。学習成果発表会の後に、先生や実川さんと相談しながら作り直したプレゼンテーションは、わかりやすく説得力がある内容で、社員からは「細部にわたって企画が考えられており、実現性の高さを感じた。」等の感想がありました。

クリスマスプログラムとして実現！

プレゼンテーションした企画の一つである「Girls Photo」は、携帯を使って自分で自分を撮る「自撮り」ができる場所を設置する、撮った写真をサイトに応募すると優秀作品に選考された応募者に展望台の招待券等をプレゼントする、という内容です。見学した中で、展望台には撮影ポイントが一つしかなく残念に感じたことと、自撮りしている来館者が多いことに注目して考えたものです。この企画が、六本木ヒルズ展望台 東京シティビューのクリスマスプログラムとして導入されることとなりました。



高校生たちは、クリスマスツリーをプロデュースする増田セバスチャン氏との数回にわたる打合せを行いました。そして、自撮りするための台をクリスマスツリーと同じデザインの切り株の形にしたり、写真を投稿してクリスマス限定のプレゼントがもらえるようにするなど、高校生のアイデアが盛り込まれました。



11月28日に行われた点灯式には、増田セバスチャン氏とともに、生徒たちも登壇。「一生懸命考えた企画がこんなにも多くの方に関わっていただいたことで実現できて、夢のようです。」とインタビューに答えていました。

校内での発表で終わるのではなく、生徒の企画が実現したことは、他の生徒たちにも大きな励みになりました。

支援団体：株式会社 RABBITSCOMPANY